

# 茨城調査時報



## 目次

インド統計協会の25周年記念式典に列席して	1
毎月勤労統計調査結果速報	5
毎月人口世帯調査結果速報	9
1月における農村物価賃金の動き	11
本県における日月令別主要死因別乳児死亡数	13
新市町村の横顔	15
生産動態調査	17
統計教育研究校だより(1)	23
昭和31年度貯蓄に関する世論調査結果	27
統計図表の作り方(その5)	29
統計用語の解説・編集室	30

1957.2



## インド統計協会の 25周年記念式典に列席して

美濃部亮吉

### (一)

私は12月11日の夜インドのカルカッタに向つて羽田を發つた。インド統計協会に招待されて、その25周年記念式典に列席するためである。翌日の午後4時ごろカルカッタに着き、インド統計協会のゲスト・ハウス（お客様のための宿舎）に案内された。インド統計協会は、カルカッタの町はずれから、4キロほど離れた郊外にある。カルカッタの銀座チョーリング街からだ8キロ近いだろう。バスで行くとたつぷり1時間はかかる。

1951年に行つた時には、インド統計協会の建物は建築中でまだ完成していなかつた。今度行つた時もまだ増築中ではあつたが、主要な部分ほはほぼ完成していた。敷地はずい分広い。1万坪を超えるのではないかと思われ。インドの郊外には、方々に池がある。恐らく水道が完備していないためであろうか。こういう池は、人工で作つたもので、ここで洗濯もすれば、水浴びもするし、驚くべきことは食器ここでも洗う。インド統計協会の構内にもこういう池が三つもある。ずい分大きい池で、横が20メートル、たてが50メートルほどあるように思われた。この三つの池のふちに、三つの建物がたつている。

一番南のふちには、インド統計協会の副会長であるマハラノビス教授の邸宅がある。なかなか立派な建物である。マハラノビス教授の私宅というもののインド統計協会の庶務をとる室もこの中にあるし、お客様をとめる部屋もたくさんある。南の方から数えて2番目の池のふちには、インド統計協会の建物がある。5階だての細長い建物で、50メートルほどの長さである。この建物の向つて右半分がゲストハウスになつており、左半分が教室や図書館になつている。第三の池のほとりには、バラック

建の平屋がある。これは、地方や外国から来た講習生を泊める所らしく外観も内容も一番粗末である。お客様に行つてこんなことを言つては失礼に当るかも知れないが、三つの建物では部屋自体にも差異があるし、出される食事也大分ちがうように見受けられた。第1の一番立派な建物には、イギリスのフィッシャー教授とかアメリカのセンサス局のハンセン氏とかスイスのリンダー教授とか九大の北川教授とかが泊つておられた。インド統計協会と一番関係の深い方々なのであろう。面白いことにはゲストハウス第1号に泊まれた方々は、御本人だけでなく、夫人乃至は令嬢も招待されたい。私は、ゲストハウス第2号に滞在した。

この第2号宿舎には、私のほかに、ソ連の代表者が7人、中共の代表者が4人、レバノンの代表者が1人、国際統計協会の人々が1人、アメリカのエル大学のミラー教授及びカルホルニヤ大学のネイマン教授が泊つておられた。こういう人達が、同じテーブルをかこんで3度ずつ一所に食事をとるのだから、なかなか面白い。文字通り国際色ゆたかな食卓風景だといふことができるだろう。ソ連及び中共の両社会主義國の代表者達もなかなか愛想がよく、あまりうまくない英語で愛きようをふりまいていた。私が滞在していた3週間ほどの間には一度も冷い戦争もまして熱い戦争も起らず終始平和共存の状態がつづけられた。

25周年記念式典には、凡そ16ヶ国ほどから40人あまりの統計代表者が招待された。こういう人達の往復の旅費や滞在費はすべてインド統計協会が受け持つてくれる。それだけではなく、記念行事が終つた後で、向うの費用で国内をどこでも旅行させてくれる。こういう旅費滞在費を合計すれば大へんな額になるに相違ない。後できい

ところによると1億円以上の予算が見つもられている。このことであつた。そして、それは全部政府の予算でまかなわれているということである。政府の補助を受けているとはいえ、形式的には民間の統計団体の25周年記念に、1億円以上の予算がつくということは、日本では到底考えられないことである。マハラノビス教授がインド政府の経済顧問であり、ネール首相の信任も厚く、且つ彼の政治的手腕もなかなかのものであるというような色々の事情による所も大きいであろうが、統計団体の記念行事に1億円以上の予算をつけるということは、とにかくインドでは統計が日本とはくらべものにならないほど尊重されている証拠だと非常にうらやましへ感じられた。

日本では統計法施行10周年を祝うささやかな予算も、全額拒否されてしまった。

## (二)

もし日本で記念行事をするのに1億円もの予算がとれれば、相当はでな晩さん会でも計画するに違いない。16カ国ほどの国から40人以上の統計家を招待するというものはでな計画にはちがいない。しかし、行事そのものは大へんに質素な地味なものであつた。

この前に書いた第2の池に沿つて相当に広い空地がある。そこに演壇を設け、たくさんの蛍光灯をつるし、椅子をならべたのが色々の催し物をする場所なのである。12月から1月にかけてインドの空は毎日毎日一点の曇もなく晴れ渡り、雨などくすりにするほども降らないのだから、雨の時の用意などをする必要もなく、安心して野天で催物を計画することができる。冬とはいへるまは80度を越える暑さなのだから、野天に坐っていると蚊軍が襲来するのにはいささか閉口した。

25周年の記念式典としては、この野天の式場で、2度会合が催されただけである。1度目はインド統計協会の会長デシユムク氏(前大蔵大臣)及び副会長マハラノビス教授を初めインド協会に関係のある十数人の人達がかわがるがわる長広舌を振つておしまいになつた。2度目は、

外国の代表者達が祝辞を述べるだけで終りになつた。この時私も日本の代表としてまづい英語で祝辞を述べた。両度とも会が終つて、そまつな紅茶と御菓子が供せられた。1億円の予算で行う記念行事としては、むしろあつけないという感じを抱かざるを得なかつた。

記念式典の行事とはいえないかも知れないが、12月18日から1月4日まで、外国から招待された人達及びインドの統計学者乃至経済学者の講議が、毎日午前と午後に分けて5、6人ずつ行われた。時間は1時間で、題目は講演する人が自由に選んだものらしい。数学者が多だけに講議も統計数理に関するものが多かつた。たしか「オリエンタル・エコノミスト」の主筆だつたと思うが、インド統計協会を痛烈に批判した人もいた。後に述べるつもりであるが、インド統計協会は、第二次五カ年計画の草案を作つたのである。この第二次五カ年計画は社会主義の実現を目標としたもので、民間資本家の活動を抑制し、国家資本による企業活動をできるだけ活潑にしようという案であつた。

こういう行き方に対する財界の反撥は相当に激烈であるらしい。オリエンタル・エコノミストの主筆は、こういう社会主義化の方向を打ち出したインド統計協会を激しく批難したのである。彼の主旨は、インド統計協会は統計的基礎に基づいて計画が樹てられれば、それだけで経済は計画通りに進行するものと思つている。しかし、それは大まちがいで、いくら数字的にうまく計画が立てられていても、それを實現する力は、統計以外の所にある。民間企業を圧迫する計画は、こういう力を死滅せしめるものである。というような所にあつたようである。彼の主張に対しては、インド統計協会の人達や政府の中央企画庁の人達から猛烈な反対がなされた。ラオというニューデリー大学の教授は、第二次5カ年計画は零細企業の発達をもつと重視すべきであり、又サービス業の発展に対する認識が足りないといつて第二次五カ年計画を批判した。私は、小企業及び国際統計教育に関するシンポジウムに参加して、日本の状態について報告した。

インド統計協会の25周年記念行事は、決してはなやかなものであつたはいえない。しかし、世界の有名な統計家達を招待し、互に語り合う機会を提供し、そういう先生方に講義をしてもらい、同時にインドの国内を広く旅行してインドを理解してもらうという企画は、たしかに有意義であつたといわなければなるまい。

### (三)

最後になつてしまつたが、祝われる客体であるインド統計協会のことにふれておこう。インド統計協会の原名は Imdin Statistical Institute といわれ、カルカッタの郊外のバラック・ポール街という所にある。インド統計協会に相当する組織は日本にもないしほかの国々にもない。

当然のことながら、1956年に25周年記念を祝つたのだから、インド統計協会は25年前の1931年に設立せられたことになる。しかし、正確にいうとこれは誤りで1931年の12月17日はマハラノビス教授等がインド統計協会の設立について会合をもつた日で、正式に設立されたのは翌年即ち1932年4月28日のことであつた。設立当初は、統計ことに統計数理の研究を目的とし、研究員も2、3名にすぎなかつた。同時にそれはマハラノビス教授等の統計学者によつて設立された純すいの民間団体であつたわけである。

インド統計協会に集つた学者達は、1933年にその研究の成果を発表する機関紙を発行するようになった。それは普通サンキヤ (SanKya) と呼ばれており、数理に関する優秀な論文が掲載されるので世界的にも有名である。1935年には、インド政府から5000ルピーの補助金を支給されるようになった。その後その補助金の額は段々と多くなり、それにつれてインド統計協会も半官半民の色彩を強くもつようになった。1937年に、インド統計協会はインド中央ジユート協会と協同で、ジユートの生産高に関するサンプル調査を行つた。インド統計協会の統計的調査活動はその後段々と活潑になり、今日では立派な集計設備までもつている。その集計機械の半分は I・B・M の機械であり、他の半分はソ連製である。1939年にイ

ンド統計協会は、統計家の養成のための教育機関を設けるようになった。この面でも、インド統計協会の活動はその後ますます活潑になり、後に述べるように今日では色々の種類の教育コースをもつようになった。

今日のインド統計協会も、以上に述べた3つの方面で主要な活動をしているようである。即ち、スタッフの人達の研究活動と、実際の統計調査活動と、統計家の養成のための統計教育の三つである。インド統計協会の活動がどんなに拡大されたかは、その金融の面を見るとよくわかる。設立当初の1932年における予算額は僅に1年250ルピーにすぎなかつた。これが今日では約600万ルピーに増大している。600万ルピーとえば、約4億5400万円に当る。いかにその規模が大きいかわかるだろう。常勤の従業者も167人に上つている。

インド統計協会は、今日においてもなお形式的には民間の団体である。しかし、その仕事の大部分は、政府の依頼を受けて、政府の金融的補助の下に行われている。5年度の予算を見ても、600万ルピーの収入のうち523万ルピーは政府の補助金である。その割合は87%に達している。こういう点から見ればインド統計協会は半官半民の組織、或いは政府の外かく団体だといつても誤りではあるまい。最近、政府の補助金を急増する法律案が提出されるということであつた。そうなれば、インド統計協会はますます政府の機関たる色彩を濃厚にするわけである。

現在インド統計協会では、統計教育に関するつぎのようなコースを実施している。

1. 高度の統計教育を施すための個ベースのコース
2. 統計専門家を養成するための3年間のコース
3. 統計教育のための短期コース
4. 国際統計協会と協同で実施されている国際統計教育コース
5. 職業をもつている人達に対する統計的再教育のためのコース

インド統計協会の行つているサンプル調査のなかでは、1950年から実施しているナショナル・サンプル調査 (National Sample Survey) が有名である。これはマハラノビス教授の企画によるもので、或る一つの目的のた

# 茨城県調査統計連絡協議会の総会開かる

県内において調査統計事業を実施している官公庁および会社、団体をもつて構成される茨城県調査統計連絡協議会では、去る1月17日県議会第五委員会において昭和31年度定期総会を開催したが、協議事項と出席者名は次のとおりである。なお会議終了後出席者全員が県立体育館で開かれている原子力平和利用茨城博覧会を参観した

## ◆協議事項

1. 昭和30年度の決算について
2. 昭和31年度予算について
3. 協議会の運営について
4. 資料の配付および情報交換について
5. その他

## ★茨城県調査統計連絡協議会出席者芳名★

(所 属 名)	(氏 名)
東京電力茨城支店	佐藤 和夫
〃	中崎 祐吉
関東財務局水戸財務部	川又 弘

水戸地方裁判所  
 水戸鉄道管理局  
 電〃公社茨城電気通信部  
 日立鉱業所  
 県警察本部刑事部防犯課  
 日本銀行水戸事務所  
 水戸測候所業務課  
 日本専売公社水戸地方局  
 水戸郵便局  
 常磐相互銀行水戸支店  
 水戸商工会議所  
 関東銀行  
 常陽銀行  
 茨城労働基準局  
 茨城県調査企画課  
 〃  
 〃

高崎 侖子  
 島田 操  
 久保田 千代吉  
 佐藤 彰  
 長須 敬信  
 桜井 福寿  
 宇津木 直治  
 伊藤 昇寿  
 中川 信男  
 佐藤 栄  
 井上 国四郎  
 広木 治彦  
 大津 清造  
 加藤 勇  
 平野 逸郎  
 山中 平守  
 岡野 満  
 (順序不同)

## 【資料】 主要経済指標 (日本銀行発行経済統計月報昭和31年12月号より抜粋)

	卸売物価	東京小売物価	消費者物価(東京)	輸出物価	輸入物価	名目資金	実質資金	消費水準	
								都市	農村
昭和26年	...	...	...	...	..	100.0	100.0	100.0	100.0
〃 27年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	117.7	112.1	115.4	118.8
〃 28年	100.4	103.5	107.5	94.8	90.2	133.5	119.3	131.5	116.9
〃 29年	99.7	106.9	113.3	91.2	86.6	142.1	119.3	131.6	117.5
〃 30年	97.9	102.4	111.7	91.5	87.2	149.2	126.7	138.1	120.0
〃 31年	102.2	102.1	111月 113.0	11月 97.0	11月 86.1	10月 145.9	10月 122.2	9月 139.0	9月 106.7

めに調査客体を抽出せず、抽出した客体について色の種類の調査を行うものである。即ち生産・家計・失業・人口動態・交通等に関する調査をあらかじめ抽出されている同一の客体について行うのである。いうまでもなく、そのためには常任の調査員が使われる。インドのように地域が広く、文盲者が多く、言語が種々様々であるような国ではこういう多目的の抽出調査以外には調査の方法がないのではないと思われる。

インド統計協会は、最近では政府の経済計画の立案を

も引き受けるようになった。インドの第二次5カ年計画の草案は、インド統計協会、中央企画庁及び経済省の協同作業によって作成されたものである。

× × ×

インド統計協会の活動はまことにめざましい。全統連も、インド統計協会ほどではなくても、せめて完備した統計協会をもち、外国の統計家を呼んで、統計に関する講義をしてもらう位のことはしたいものだと思う。

(筆者は行政管理庁基準部長)

# 毎月勤労統計調査結果速報

(昭和31年12月分)

## 労働省大臣官房労働統計調査部

### 茨 城 県 — 結 果 の 概 況 —

#### ◆年末手当の支給順調

12月の1人当たり平均現金給与額は30,426円で15,196円の増加である。

これは年末手当の支給によるものが主因である。11月に比べて「定期給与」は124円と僅かではあるが増加した。これは年末繁忙による時間外手当の増加による。「臨時給与」は15,231円で前月より15,062円と急増した。これは大部分の事業所が年末手当などの賞与支給したためである。この年末手当は給与締切日と暦月と一致しない事業所は1月分として報告されるので「15,231円」が

本年度の年末手当と謂うことはできないが昨年末の対前月増が12,033円、本年末の対前月増15,196円であるためこの増加差額3,163円が増加支給か？支給日の繰上か？で何れにしても業界の好況の影響があつたと見られる。

さらにこれを産業別に見ると昨年と同様第1位は運輸通信業の22,389円である。第2位も昨年同様医療保健業の19,198円である。昨年全産業の平均を上廻つたのは運輸通信業のみであつたが、本年は第3位の商業まで全産業平均を超えている。

区 分	総 額	前 月 差	定期給与	前 月 差	臨時給与	前 月 差
総 数	30,426	15,186	15,195	124	15,231	15,062
D 鉱 業	29,573	15,010	14,825	262	14,748	14,748
F 製 造 業	27,041	12,788	14,370	137	12,671	12,645
20 食 料 品 製 造 業	24,000	12,077	12,325	392	11,675	11,675
22 紡 織 業	12,965	6,278	6,808	121	6,157	6,157
35 機 械 製 造 業	26,494	13,548	13,484	538	13,010	13,010
36 電 気 機 械 機 具 製 造 業	28,092	12,047	15,904	-145	12,188	12,188
G 卸 売 及 び 小 売 業	28,913	15,760	13,318	232	15,595	15,528
H 金 融 及 び 保 險 業	30,012	9,430	20,691	109	9,321	9,321
J 運 輸 通 信 及 び そ の 他 の 公 益 事 業	39,399	21,688	17,010	-11	22,389	21,699
E 建 設 業	16,375	5,952	10,415	-8	5,960	5,960
K88 医 療 保 健 業	33,719	19,359	14,521	161	19,198	19,198

#### 特 別 に 支 払 っ た 現 金 給 与

区 分	27 年	28 年	29 年	30 年	31 年
総 数	9,361	11,695	11,588	11,976	15,231
D 鉱 業	9,290	9,247	7,238	8,202	14,748
F 製 造 業	8,681	11,014	10,629	9,245	12,671
20 食 料 品 製 造 業	10,464	12,886	13,562	6,456	11,675
22 紡 織 業	2,533	2,741	2,863	4,658	6,157
35 機 械 製 造 業	6,319	9,558	6,864	8,127	13,010
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	9,333	13,472	12,702	10,301	12,188
G 卸 売 及 び 小 売 業	9,765	12,855	18,406	11,430	15,595
H 金 融 及 び 保 險 業	8,423	8,996	—	8,144	9,321
J 運 輸 通 信 及 び そ の 他 の 公 益 事 業	10,594	14,594	16,498	21,234	22,389
E 建 設 業	—	—	2,073	2,822	5,960
K88 医 療 保 健 業	—	—	14,730	14,342	19,198

第1表 産業別常用労働者の種類及び性別1人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額 (規模30人以上) (単位円)

産 業 名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われた給与			臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
<b>全常用労働者</b>										
総数	30,426	34,337	13,796	15,195	17,012	7,470	15,231	17,325	6,326	296
D 鉱業	29,573	31,154	12,638	14,825	15,653	5,955	14,748	15,501	6,683	333
F 製造業	27,041	31,743	11,288	14,370	16,678	6,642	12,671	15,065	4,646	290
20 食料品製造業	24,000	29,846	9,299	12,325	15,002	5,592	11,675	14,844	3,707	297
22 紡織業	12,965	31,706	10,653	6,808	14,659	5,839	6,157	17,047	4,814	262
35 機械製造業	26,494	29,655	11,336	13,484	14,948	6,463	13,010	14,707	4,873	571
36 電機機械器具製造業	28,092	31,307	11,460	15,904	17,559	7,342	12,188	13,748	4,118	575
G 卸売及び小売業	28,913	34,129	12,607	13,318	15,295	7,251	15,595	18,870	5,356	261
H 金融及び保険業	30,012	37,225	16,749	20,691	25,911	11,093	9,321	11,314	5,656	0
J 運輸通信業及びその他の公益事業	39,399	41,857	23,589	17,010	18,196	10,023	22,389	23,761	13,566	324
E 建設業	16,375	17,735	8,849	10,415	11,225	5,933	5,960	6,510	2,916	336
K88 医療保健業	33,719	49,766	23,160	14,521	20,961	10,284	19,198	28,805	12,876	211
<b>生産労働者</b>										
D 鉱業	26,528	27,708	10,526	14,734	15,412	5,542	11,794	12,296	4,984	—
F 製造業	19,581	22,752	9,948	12,182	14,164	6,162	7,399	8,588	3,786	—
20 食料品製造業	19,370	24,768	7,500	10,586	13,132	4,988	8,784	11,636	2,512	—
22 紡織業	10,891	20,871	10,372	5,987	11,000	5,726	4,904	9,871	4,646	—
35 機械製造業	20,980	23,137	9,383	12,511	13,753	5,834	8,469	9,384	3,549	—
36 電機機械器具製造業	19,655	21,572	9,877	13,334	14,609	6,834	6,321	6,963	3,045	—
E 建設業	9,378	10,198	5,409	8,397	9,140	4,802	981	1,058	607	—
<b>管理事務及び技術労働者</b>										
D 鉱業	48,371	55,543	17,405	15,387	17,356	32,984	38,187	10,517	—	—
F 製造業	46,095	52,937	15,874	19,958	22,605	26,137	30,332	7,590	—	—
20 食料品製造業	36,775	41,991	16,792	17,122	19,475	19,653	22,516	8,686	—	—
22 紡織業	28,501	38,845	15,224	12,959	17,070	15,542	21,775	7,542	—	—
35 機械製造業	43,419	51,302	15,595	16,470	18,916	26,949	32,386	7,759	—	—
36 電機機械器具製造業	45,398	51,142	14,827	21,175	23,571	24,223	27,571	6,400	—	—
E 建設業	28,842	30,388	17,556	14,011	14,726	14,831	15,662	8,761	—	—

第2表 産業別常用労働者の種類別及び性別1人平均月間実労働時間数及び出勤日数(規模30人以上)

産 業 名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出 勤 日 数		
	総 数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
<b>全 常 用 勞 働 者</b>												
總 数	203.8	206.5	192.0	181.4	181.0	183.2	22.4	25.5	8.8	24.3	24.3	24.3
D 鉱 業	201.2	202.6	187.4	176.0	175.9	177.8	25.2	26.7	9.6	24.2	24.2	24.7
F 製 造 業	210.3	215.6	192.8	181.5	181.0	183.3	28.8	34.6	9.5	24.1	24.2	23.8
20 食 料 品 製 造 業	205.0	210.3	191.6	187.0	188.1	184.3	18.0	22.2	7.3	25.0	25.5	23.6
22 紡 織 業	197.4	208.6	195.9	195.5	195.1	195.5	1.9	13.5	0.4	24.4	24.3	24.4
35 機 械 製 造 業	223.9	228.8	200.7	194.9	195.3	193.3	29.0	33.5	7.4	24.7	24.8	24.2
36 電機機械器具製造業	213.1	216.8	193.9	180.0	180.3	178.4	33.1	36.5	15.5	24.1	24.1	23.9
G 卸売及び小売業	204.1	200.1	216.4	186.2	180.0	205.4	17.9	20.1	11.0	25.3	25.0	26.2
H 金 融 業	172.6	172.8	172.3	165.4	166.7	165.8	6.2	6.1	6.5	24.1	24.1	24.1
J 運輸通信及びその他の公益事業	195.4	195.6	187.1	186.3	187.0	181.6	9.1	9.6	5.5	24.5	24.4	24.9
E 建 設 業	199.3	201.6	186.2	188.2	189.7	179.6	11.1	11.9	6.6	24.2	24.3	23.7
K88 医 療 保 健 業	189.8	195.5	186.0	176.3	179.7	174.0	13.5	15.8	12.0	23.7	24.2	23.4
<b>生 産 勞 働 者</b>												
D 鉱 業	200.7	201.7	188.0	175.3	175.0	179.5	25.4	26.7	8.5	24.0	24.0	24.4
F 製 造 業	212.3	218.7	193.1	181.6	180.8	184.2	30.7	37.9	8.9	24.1	24.0	23.8
20 食 料 品 製 造 業	205.4	211.7	191.4	186.9	187.5	185.5	18.5	24.2	5.9	25.0	25.7	23.6
22 紡 織 業	196.5	213.0	195.6	195.1	190.2	195.3	1.4	22.8	0.3	24.4	23.5	24.4
35 機 械 製 造 業	227.3	231.8	202.9	195.2	195.4	194.1	32.1	36.4	8.8	24.8	24.9	24.3
36 電機機械器具製造業	215.3	219.3	194.7	179.7	180.0	178.1	35.6	39.3	16.6	24.0	24.0	23.8
E 建 設 業	190.2	193.0	176.4	182.9	184.5	175.0	7.3	8.5	1.4	23.8	23.8	23.5
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者</b>												
D 鉱 業	204.5	209.0	185.9	180.4	182.0	173.9	24.1	27.0	12.0	25.7	25.8	25.3
F 製 造 業	205.4	208.4	191.9	181.3	181.5	180.3	24.1	26.9	11.6	24.2	24.2	23.8
20 食 料 品 製 造 業	203.9	206.9	192.5	187.3	189.3	179.6	16.6	17.6	12.9	24.8	25.1	23.7
22 紡 織 業	203.7	205.7	201.2	198.5	198.3	198.8	5.2	7.4	2.4	24.8	24.8	24.9
35 機 械 製 造 業	213.7	218.7	196.1	194.1	194.8	191.6	19.6	28.9	4.5	24.5	24.6	24.1
36 電機機械器具製造業	208.5	211.6	192.1	180.5	180.8	178.9	28.0	30.8	13.2	24.2	24.2	23.9
E 建 設 業	215.3	215.9	211.0	197.6	198.5	191.1	17.7	17.4	19.9	25.0	25.1	24.2



第3表

産業別常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の月間推計延人員(規模30人以上)

産 業 名	前日末労働者数			本日中の増加			本日中の減少			本日末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計延人員
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
<b>全 常 用 勞 働 者</b>													
總 数	68,864	55,710	13,154	1,361	1,132	229	906	691	215	69,319	56,151	13,168	67,406
D 鉱 業	11,219	10,259	960	195	179	16	199	178	21	11,215	10,260	955	11,086
F 製 造 業	35,496	27,295	8,201	980	814	166	575	427	148	35,901	27,682	8,219	13,343
20 食 料 品 製 造 業	2,699	1,928	771	70	59	11	59	45	14	2,710	1,942	768	4,854
22 紡 織 業	2,001	220	1,781	13	3	10	28	5	23	1,986	218	1,768	374
35 機 械 製 造 業	2,130	1,762	368	38	34	4	21	19	2	2,147	1,777	370	63
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	19,861	16,624	3,237	643	569	74	283	228	55	20,221	16,965	3,256	66
G 卸 売 及 び 小 売 業	4,295	3,251	1,045	69	47	22	55	29	26	4,310	3,269	1,041	19,209
H 金 融 及 び 保 險 業	2,521	1,629	892	4	4	0	33	15	18	2,492	1,618	874	0
T 運 輸 通 信 及 び その他の公益事業	15,332	13,276	2,056	113	88	25	44	42	2	15,401	13,322	2,079	23,768
E 建 設 業	5,841	4,936	905	521	442	79	128	86	42	6,234	5,292	942	93,487
K88 医 療 保 健 業	2,412	953	1,459	19	9	10	53	14	39	2,378	948	1,430	0
<b>生 産 勞 働 者</b>													
D 鉱 業	9,654	8,991	663	179	169	10	180	171	9	9,653	8,989	664	—
F 製 造 業	25,487	19,141	6,346	845	700	145	513	383	130	25,819	19,458	6,361	—
20 食 料 品 製 造 業	1,977	1,356	621	70	59	11	54	42	12	1,993	1,373	620	—
22 紡 織 業	1,767	88	1,679	10	1	9	26	3	23	1,751	86	1,665	—
35 機 械 製 造 業	1,602	1,351	251	31	27	4	9	9	0	1,624	1,369	255	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	13,326	11,127	2,199	552	485	67	258	209	49	13,620	11,403	2,217	—
E 建 設 業	3,667	3,029	638	501	422	79	101	70	31	4,067	3,381	686	—
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者</b>													
D 鉱 業	1,565	1,268	297	16	10	6	19	7	12	1,562	1,271	291	—
F 製 造 業	10,009	8,154	1,855	135	114	21	62	44	18	10,082	8,224	1,858	—
20 食 料 品 製 造 業	722	572	150	0	0	0	5	3	2	717	569	148	—
22 紡 織 業	234	132	102	3	2	1	2	2	0	235	132	103	—
35 機 械 製 造 業	528	411	117	7	7	0	12	10	2	523	408	115	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	6,535	5,497	1,038	91	84	7	25	19	6	6,601	5,562	1,039	—
E 建 設 業	2,174	1,907	267	20	20	0	27	16	11	2,167	1,911	256	—

# 毎月人口世帯異

## 1. 世帯異動状況

	前月末	増		加		減		少		本月末
		転入		その他	計	転出		その他	計	
		県外から	県内から			県外へ	県内へ			
世帯数	385,604	208	369	55	632	227	279	50	556	385,680
前月との増減比	—	89.7	94.4	41.7	83.7	87.0	100.7	74.6	91.9	100.02

前月=100

## 2. 人口異動状況

	前月末	増		加		減		少		本月末		
		出生	転入		その他	計	死亡	転出			その他	計
			県外から	県内から				県外へ	県内へ			
男	1,011,839	1,483	1,494	1,535	198	4,710	873	1,364	1,387	106	3,730	1,012,819
女	1,067,736	1,410	847	1,405	12	3,674	794	1,277	1,544	28	3,643	1,067,767
計	2,079,575	2,893	2,341	2,940	210	8,384	1,667	2,641	2,931	134	7,373	2,080,586
前月との増減比	—	102.6	84.8	104.9	92.1	97.4	116.3	87.4	108.4	84.3	100.8	100.05

前月=100

## 3. 県外からの転入者内訳

従前の住居地	転入者数	割合
東京都	922	39.4%
埼玉県	84	3.6
神奈川県	106	4.5
千葉県	110	4.7
栃木県	92	3.9
群馬県	26	1.1
福島県	250	10.7
その他の府県	751	32.1
合計	2,341	100

## 4. 県外転出者内訳

転出先の居住地	転出者数	割合
東京都	1,468	55.6%
埼玉県	82	3.1
神奈川県	238	9.0
千葉県	196	7.4
栃木県	112	4.3
群馬県	30	1.1
福島県	134	5.1
その他の府県	381	14.4
合計	2,641	100

## 5. 市町村別世帯数及び人口

市町村名	世帯数	人口	市町村名	世帯数	人口	市町村名	世帯数	人口
<b>市部計</b>	<b>160,633</b>	<b>802,710</b>	竜ヶ崎市	6,618	34,202	<b>郡部計</b>	<b>225,047</b>	<b>1,277,876</b>
水戸市	24,170	112,081	那珂湊市	6,870	33,484	東茨城郡	28,488	154,844
日立市	28,875	139,280	下妻市	5,596	32,130	常澄村	1,780	10,452
土浦市	15,855	72,361	水海道市	7,283	40,002	石崎村	1,085	6,171
古河市	8,290	40,852	常陸太田市	7,695	39,623	赤塚村	1,904	10,082
石岡市	7,274	36,389	勝田市	7,206	37,058	茨城町	4,457	25,502
下館市	9,628	52,863	高萩市	6,614	31,952	小川町	3,010	16,730
結城市	6,928	39,721	北茨城市	11,731	60,712	美野里村	2,703	15,429

( )内は、町村合併による異動世帯数及び人口

# 動 調 査 結 果 速 報

(昭和31年12月分)

市町村名	世帯数	人 口	市町村名	世帯数	人 口	市町村名	世帯数	人 口
内原村	2,268	13,402	銚田町	5,284	29,945	筑波郡	17,183	97,794
飯富村	796	4,224	大洋村	1,874	10,908	谷田部町	3,954	22,176
常北町	2,397	12,692	大野村	1,815	11,352	伊奈村	2,151	12,763
桂村	1,917	9,803	鹿島町	2,792	16,421	谷和原村	2,012	11,734
御前山村	1,488	8,051	神栖村	2,859	17,182	豊里町	2,120	12,292
大洗町	4,683	22,306	波崎町	4,314	24,952	菅間村	390	2,411
<b>西茨城郡</b>	<b>17,418</b>	<b>96,533</b>	<b>行方郡</b>	<b>13,059</b>	<b>75,565</b>	筑波町	4,372	24,018
笠間町	4,898	26,153	麻生町	3,606	21,360	大穂町	2,184	12,400
友部町	3,446	19,289	牛堀町	1,237	7,234	<b>眞壁郡</b>	<b>13,861</b>	<b>81,809</b>
岩間町	2,504	14,487	潮来町	3,176	18,059	関城町	2,632	15,749
七会村	758	4,392	北浦村	2,183	13,060	明野町	3,084	18,739
稲田町	1,425	7,736	玉造町	2,857	15,852	大和村	1,423	8,702
岩瀬町	4,387	24,476	<b>稲敷郡</b>	<b>20,754</b>	<b>115,508</b>	眞壁町	4,218	23,583
<b>那珂郡</b>	<b>20,417</b>	<b>112,220</b>	江戸崎町	2,525	13,638	協和村	2,504	15,036
東海村	1,849	11,678	美浦村	1,725	9,922	<b>結城郡</b>	<b>9,404</b>	<b>57,024</b>
那珂町	5,898	31,624	阿見町	4,168	21,892	八千代村	4,218	26,322
国田村	656	3,632	莩崎村	1,075	6,507	千代川村	1,621	9,366
瓜連町	1,337	6,860	牛久町	2,931	15,855	石下町	3,565	21,336
大宮町	4,909	26,293	新利根村	1,826	10,048	<b>猿島郡</b>	<b>20,470</b>	<b>126,511</b>
山方町	2,622	14,129	大須賀村	628	3,695	総和村	3,275	20,892
美和村	1,560	9,130	桜川村	1,679	9,430	五霞村	1,518	9,975
緒川村	1,586	8,874	河内村	1,482	8,838	三和村	3,224	20,626
<b>久慈郡</b>	<b>14,516</b>	<b>80,068</b>	金江津村	903	5,209	猿島町	2,492	15,801
金砂郷村	2,831	15,888	東村	1,812	10,474	岩井町	5,898	35,479
水府村	2,336	12,419	<b>新治郡</b>	<b>15,839</b>	<b>89,617</b>	境町	4,063	23,738
里美村	1,460	8,348	出島村	3,518	19,844	<b>北相馬郡</b>	<b>10,538</b>	<b>56,495</b>
大子町	7,889	43,413	玉里村	973	5,543	守谷町	2,167	12,139
<b>多賀郡</b>	<b>2,174</b>	<b>10,907</b>	八郷町	5,742	33,228	取手町	4,277	21,458
十王町	2,174	10,907	千代田村	2,089	12,270	藤代町	2,337	13,065
<b>鹿島郡</b>	<b>20,926</b>	<b>122,981</b>	新治村	1,686	9,116	利根町	1,757	9,833
旭村	1,988	12,221	桜村	1,831	9,616			

# 1月における農村物価賃金の動き

今月の農村物価は、農家生産物が約1.01%微騰し農家購入の購入価格は生産物に反し約2.29%の低落となった。更に前年同月の農村物価水準とくらべると農家生産物は約1.44%の上昇を示すに過ぎないが農家購入品では5.11%と大巾な値上りとなつたが、これは家畜類大家畜類及び農機具類等の全般的な値上りによるものである。

今月の農家生産物のうち特に目立つ動きは蔬菜類のね

ぎ白菜及びほうれん草等の値上りである。

これらを種類別に見ると畜産物類の値下りに対してその他の各種類は全体的に値上りを示した。

農家購入品の購入価格については目立つ動きを示したものは、前月に反して家畜類及び農用被服類が全体的に低落し、又農機具類及び農用資材類が値上りを見たがその他の各品目については殆んど保合となつている。

## 茨城県農村物価賃金調査結果

(昭和32年1月15日現在)

### (1) 農家生産物の販売価格

調査品目	単位	平均価格	前月との較比	前月を100とすれば	調査品目	単位	平均価格	前月との較比	前月を100とすれば			
穀類	糠米	1升	円 104	円 1	101	藁及び農産加工品類	稲わら	1メ	円 11	円 1	100	
	糯	〃	116	2	101		甘藷生切干	〃	—	—	—	
	大麦	〃	56	2	103		〃 蒸	〃	—	—	—	
	小麦	〃	47	—	100		〃 繩	〃	49	5	111	
	裸	〃	57	2	104		叭	枚	45	—	100	
	小麦粉	1メ	198	9	105		苳	〃	65	△ 6	92	
雑穀類	とうもろこし	1升	50	8	119	林産物類	薪	1束	40	—	100	
	あわ	〃	62	△ 3	95		木炭	1俵	443	16	104	
	ひえぎ	〃	—	—	—		蔬菜類	きうり	1メ	—	—	—
	もろこし	〃	—	—	—			しろり	〃	—	—	—
そば粉	1メ	240	9	104	かぼちや	〃		—	—	—		
大豆	1升	82	△ 1	99	すいか	〃		—	—	—		
豆類	あづき	〃	134	2	101	なす	〃	—	—	—		
	えんどう	〃	107	3	102	とまと	〃	—	—	—		
	そら豆	〃	64	4	106	だいこん	〃	24	1	104		
	いんげん豆	〃	108	6	106	かぶ	〃	—	—	—		
	落花生	〃	172	1	100	にんじん	〃	67	2	103		
	胡麻	〃	133	2	101	ごぼう	〃	83	—	100		
なたね	〃	75	2	102	さといも	〃	77	2	103			
	諸馬鈴薯	1メ	31	2	106	ねぎ	〃	72	8	112		
蚕繭	〃	51	4	108	たまねぎ	〃	72	—	100			
	〃	—	—	—	キャベツ	〃	55	2	104			
畜生物類	肉牛	生体 1メ	588	△ 23	96	結球白菜	〃	47	16	151		
	〃 豚	〃	628	△ 13	97	非	〃	32	10	145		
	〃 鶏	〃	540	△ 27	95	ほうれん草	〃	84	18	127		
	牛乳	1升	59	2	103							
	鶏卵	1個	12	△ 1	92							

(2) 農家購入品の購入価格

調査品目	単位	平均価格	前月との 比	前月を 100と すれば	調査品目	単位	平均価格	前月との 比	前月を 100と すれば			
肥料類	硫酸安	1ノ	円 86	円 1	101	農薬類	石硫黄合剤	18立g	円 632	円 7	101	
	硝酸安	//	105	△ 5	95		DDT	500	188	—	100	
	石灰窒素	//	88	2	102		ウスブルン	//	417	△ 4	99	
	過石	//	56	—	100		2-4-D	50g	116	△ 2	98	
	硫酸加里	//	115	1	101		生石灰	4ノ	327	△ 3	99	
	塩化加里	//	91	—	100		農具類	くわ	1丁	784	37	105
	菜種粕	//	118	△ 7	94			かま	//	121	9	108
	魚粕	//	191	△ 3	98			すき	1台	4,345	△ 26	100
	消石灰	//	18	1	106			噴霧器	//	4,917	990	125
	飼料類	ふすま	//	94	—			100	水田除草機	//	815	33
米糠		//	83	2	102	人力脱穀機		//	6,260	183	108	
麦		//	71	△ 2	97	動力	//	19,234	△ 331	98		
家畜類	役牛	1頭	39,775	△ 2,567	94	電動機	//	17,600	725	104		
	馬	//	34,610	△ 2,721	93	織材類	釘	100	37	1	102	
	仔豚	//	3,441	△ 18	100		針金	//	41	2	115	
	仔兎	1匹	66	—	100		トタン	1枚	363	△ 6	98	
	初生雛	1羽	91	7	108		角材	1石	3,728	45	101	
農薬類	石油	1升	45	2	104		板	1坪	480	△ 12	97	
農薬類	硫酸銅	500g	81	7	109	農用被服類	紺木綿	1反	482	△ 17	96	
	硫酸ニコチン	//	806	43	106		作業衣上下	1着	811	21	102	
	除虫菊粉末	//	246	7	103		地下足袋	1足	256	△ 6	97	
	砒酸鉛	//	129	△ 5	96		ゴム長靴	//	587	△ 27	95	

(3) 農村賃金及び農業用料金

農業労働賃 (金臨時雇1日当)					山林労働賃金(男1日当)	
賄なし	一食付	二食付	三食付	四食付	伐木	木材運搬
男 } 円 334	円 286	円 260	246	—	円 358	円 420
女 } 283	239	236	217	—	—	—
農業賃料					本月の主なる農作業	
糶摺賃	牛馬耕賃	牛賃借料	馬賃借料	稻刈		
玄米一俵当	荒起整地 1反	一日当	一日当			
51円	616円	440円	518円			

# 本県における日月令別

昭和29年における本県の日月令別主要死因別乳児の死亡数をみると、1カ月未満の死亡数が1,532名に達し、全体の約60%を占めているが、そのうち先天性弱質によるものが754名で全体の29%を占めている。次に1カ月未満で多いも

	総 計			1 月 未 満				1 月 月		2 月 月		3 月 月	
				0~14日		15~30日		男	女	男	女	男	女
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総 数	2,568	1,439	1,129	668	506	209	149	155	118	93	78	53	53
結 核	6	3	3	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
梅 毒	4	3	1	2	—	—	—	1	—	—	—	—	—
赤 痢	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ジフテリア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	46	23	23	—	2	4	1	4	6	4	4	—	2
流行性脳脊髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
破 傷 風	35	22	13	15	11	5	2	1	—	—	—	—	—
ま し ん	19	7	12	—	1	—	—	—	—	—	—	1	—
肺 炎	522	284	238	56	41	47	26	51	38	29	32	18	19
流 行 性 感 冒	4	3	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
気 管 支 炎	145	85	60	13	10	17	13	13	9	13	3	5	3
髄 膜 炎	12	4	8	1	1	—	—	—	—	—	1	1	—
脚 気	17	8	9	2	4	2	1	3	1	1	—	—	—
全身けいれん	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
下痢腸炎及び腸潰瘍	134	79	55	15	6	7	6	10	11	8	7	9	4
先天性奇型	29	15	14	11	8	2	2	1	2	—	—	—	1
先天性弱質	916	508	408	329	277	84	64	41	32	15	12	7	6
早 産	210	108	102	86	82	13	10	6	5	1	—	—	3
分娩による産児の傷害	18	15	3	14	3	—	—	1	—	—	—	—	—
その他の乳児固有の疾患	121	76	45	52	27	8	7	3	4	5	3	—	—
不慮の傷害	31	19	12	1	1	—	—	4	1	5	2	1	3
不詳不明の原因	10	6	4	1	2	1	—	—	—	2	1	1	—
その他の全死因	287	170	117	69	30	19	17	16	9	10	12	10	12

(資料) 県衛生部医務課

# 主要死因別乳児死亡数

(昭和 29 年)

のは早産によるもの191名、肺炎によるもの170名などである。また乳児の死亡数は生後月日のたつに従い減少していることになる。

4ヶ月		5ヶ月		6ヶ月		7ヶ月		8ヶ月		9ヶ月		10ヶ月		11ヶ月	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
37	37	38	20	43	32	35	29	26	18	33	26	20	20	29	43
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1	—	1	1	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	1	2	—	1	—	2	1	—	1	2	—	2	2	1	3
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	1	—	—	2	—	1	1	—	2	1	2	—	2	2	3
14	12	11	6	12	13	10	10	9	6	9	13	7	6	11	16
—	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—
3	3	4	4	7	4	3	3	1	1	3	—	2	3	1	4
—	—	1	1	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	—	2
—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
3	4	5	1	1	3	4	2	4	2	4	5	3	3	6	1
—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	5	8	1	4	5	7	3	3	1	3	—	1	—	—	2
1	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	1	1	—	—	2	—	—	—	—	3	—	1	—	—	1
1	1	1	—	2	—	—	—	1	—	—	—	2	1	1	3
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—
4	7	5	4	13	3	7	8	6	4	4	3	1	1	6	7





# 村の横顔

## な が 那珂町

### 1. 沿革

この町は那珂郡の中部に位し、水戸から汽車で約20分、東海村と勝田市に、南は那珂川を隔てて水戸市および東茨城郡飯富村と常北町に、西は大宮町の一部と瓜連町町にそれぞれ隣接し、北は久慈川を境に常陸太田市および久慈郡金砂郷村の一部に相對している。この地方は昔中世まで大部分が那珂郡、一部が久自郡に属し、武田郷や河内郷、河辺郷、大井郷、倭文郷、木前郷、神崎郷などに分れており豪族江戸氏や關東の領藩佐竹氏の所領であつたが、後世徳川時代には約260年余水戸藩のおひざ元として、棚倉街道(太田街道)、白河街道(大宮街道)の宿場が各地に発達し、人馬の往来も盛んで非常に重要地視された。明治維新後はすべて那珂郡に一括され鉄道の発達によって水郡線、太田線の分岐点となり特に菅谷には大正時代に郡役所、昭和に入つては地方事務所が昭和30年12月まで設置されてこの地方の中心地であつた。昭和30年3月31日には、菅谷町を中心に神崎、額田、木崎、芳野、戸多、五合村の1町6ヶ村が合併して、今や面積83.57平方町、人口実に31,586人、(男15,415人、女16,171人)、世帯数5,898戸を有する(昭和32年12月毎月人口)那珂町が誕生し、全地域住民が大同團結して農業を重点に農商工一体の豊かで平和な郷土の建設をめざして力強い足跡を示している。

### 2. 産業

まず農業面をみると、農家戸数4,833戸、農家人口26,816人(男13,060人、女13,756人)、耕地総面積4,457町、田2,274町、畑3,151町、樹園地32町(果樹園6町、茶園3町、桑園21町、その他2町)、山林1,550町を有しているが(昭和31年夏期調査)やはり畑作経営農家が多く、中でも麦類2,160町、陸稻817町、大豆410町、さつまいも916町、らつかせい167町、こぼろ87町、葉たばこ83町、苗木類64町に達している。特に苗木の栽培は徳川時代の初期に始められたが、現在では発祥地杉、菅谷、後台、芳野、額田の各地区に広まり生産農家は372戸、すぎ苗1,757万本を最高としてひのき、ひば、まつ、くぬぎなど合せて年産約2,000万本にのぼり、市町村としては全国第一位の生産高を示し東北地方や北海道方面へ出荷して大変好評を受けている。さらに那珂川沿岸の戸多地区、久慈川沿岸の木崎、額田地区のこぼろも品質が良好で生産も多く、昨年から大阪市場まで送っている由。

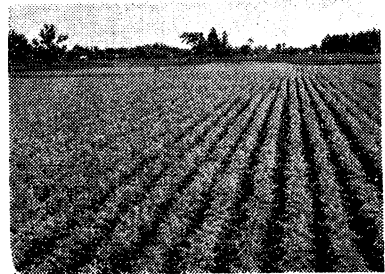
次に畜産方面をみると、乳牛177頭、役肉牛967頭、馬144頭、めん羊126頭、山羊606頭、豚2,315頭、兎708頭、にもとり25,475羽、あひる18羽、蜜蜂9群を有し、(昭和31年2月冬期調査)、次第に有畜農家が多くなつたことが目立っている。また農機具の所有状況を見ると電動機501台、石油発動機871台、ガーデントラクター4台、動力用耕うん機6台、脱穀機1,331台、足踏脱穀機2,484台、動力用もみすり機427台、製粉機123台、精米(麦)機467台、噴霧機7台、人力噴霧528台、動力撒粉機10台、製建機12台、製糞機207台、足踏製糞機1,341台、畜力カルチベーター202台、水田中耕除草機19台、碎土機315台、エンシレーヤカッター14台、いも糠飼料機5台、人力いも糠飼料機5台、畑用播種機384台、畜力すき599台に達している。この地方は畑地のかんばつが大

きながんとなつていたが国や県の直営工事として昭和25年から那珂川下江戸地先から750馬力の揚水機をもつて総延長23,500米の幹線水路を建設する那珂中部土地開拓助成事業が巨額の経費を投じて進められており、この完成のあかつきには、米33,000石の増収が見込まれている由。

すでに町の営農試験地や水稲改善展示圃が各地区に設置されている。ここには国有林や飛行場跡を利用して開拓部落が戸多、芳野五合地区に約150戸入植して立派な実績を取めているが、水田が少ないために酪農経営の育成が将来への課題であろう。また養蚕農家141戸で年間収繭高3,873メをあげている。次に商業方面をみると法人および常用労働者を有する商店34、従業者153名、年間販売額2億648万円、常用労働者のいない商店300、従業者518名で年間販売額2,041万円(昭和31年7月商業調査)で工業面みると、工場数47、従業者295名、年間製造出荷額2億9,731万円に達しているが、(昭和30年12月末工業調査)写真機用機具や澱粉製造工場、家具製造工場業が目立っているに過ぎない。

### 3. 教育文化

ここには小学校8、中学校7、各種学校2あつて、小学児童数4,344名(男2,242名、女2,102)、中学生徒数2,130名(男1,080、女1,050)、各種学校生徒45名を有し、校内設備時に給食設備や更衣室などの整備拡充に努めている。国民健康保険組合は、芳野地区において戦前から実施していたが、昭和32年から全町に実施する計画を樹立し、町民全体の医療保険の改善向上を期している由。また菅谷地区には県営住宅65戸、町営住宅45戸が建設され、将来は水戸市郊外の住宅街として発展する可能性が強い。次に新生活運動や社会教育方面においては、公民館をはじめ、青年団、婦人会、子供会、未亡人会などを中心に早くから生活改善や町民文化の活動が展開されており、かまどの改善、農業祭、町民運動会、洋裁、料理の講習会、ねずみ退治などを広く行つている。またここには豪華壯麗をきわめる大助祭(ちようちん祭)で近郷に知られる菅谷の鹿島神社をはじめ、源義家が奥州征伐の際再建した酒出の駒形神社、額田城址にある鹿島八幡神社、承久3年明法坊が創立して国宝聖徳太子一代繪巻を所蔵する米崎の上宮寺(真宗)などの外にも神社、寺院が非常に多い。ここには県内随一を誇る茨城変電所が横畑にある。



### 4. 財政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算

(第4次更正)

(単位円)

歳入	町税	地方交付税	公営企業及使用料及 び財産収入	国庫支出金	県支出金	寄附金	繰越金	雑収入	町債	合計					
	47,869,200	25,811,000	16,050,717,025	4,323,700	5,021,008	30,001	5,603,230	3,312,619	1,623,000	94,326,833					
歳出	議会費	役場費	警察費	土木費	教育費	社会及び労働 衛生費	保健費	産業 経済費	財産費	統計 調査費	選挙費	公債費	諸 支出 金	予備費	合計
	1,701,610	31,019,481	805,313	7,746,386	17,589,954	6,173,445	1,193,275	14,210,619	835,854	367,985	449,610	778,934	6,952,884	501,149	94,326,833

# 生産動態調査

## 繊維部門

(昭和31年1月度分)

(調査企画課商工調査係)

### 概況

#### 織物

綿織物の生産は前月度の約2%減少した。引渡高は依然需要盛んで約2%増加した。

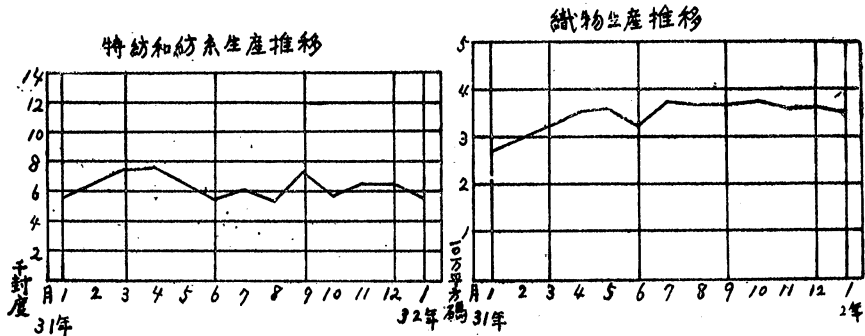
絹織物は前月度に引き続き生産順調で前月度の約5%の減に止まった。

#### メリヤス製品

メリヤス製品は前月度の約31%減、引渡高は約29%減少した。

#### 縫製品

学校服、制服、既成服の生産は共に大巾に減少した。



### (1) 対象工場数

業種	特紡和紡糸	綿織物	絹織物	メリヤス製品	雑繊維製品	縫製品	製綿
対象	7	17	314	10	3	18	9
操業	7	17	314	10	3	13	9
休止	—	—	1	—	—	5	—

## (2) 生産および出荷状況

部門別	品目別	単位	生産高		引渡高		月度末在庫高	
			当月度	前月100対比	当月度	前月100対比	当月度	前月100対比
紡	計	封度	56,114	88	57,401	93	4,659	78
	落綿糸	〃	10,600	96	11,000	110	800	67
	特紡糸	〃	37,800	86	38,800	90	1,325	57
	和紡糸	〃	7,714	89	7,601	88	2,534	105
績	織物計	平方碼	356,211	98	417,255	133	184,938	75
	綿織物	〃	205,729	98	237,806	120	85,781	73
	絹織物	〃	55,689	97	60,292	160	62,801	93
	絹紡織物	〃	3,904	72	3,926	69	4,099	99
織	和紡織物	〃	60,813	99	72,428	135	22,137	66
	特紡織物	〃	—	—	—	—	—	—
	スフ織物	〃	4,514	334	2,902	234	1,725	153
	人絹織物	〃	—	—	—	—	—	—
物	合成繊維織物	〃	25,562	90	39,881	224	8,395	37
	メリヤス生地	度封	5,098	56	5,277	45	5,668	97
	製品計	打	7,052	69	8,903	71	4,827	105
	肌着	〃	1,750	61	1,801	60	531	91
メリヤス製品	外衣	〃	180	69	180	69	—	—
	手袋	〃	3,088	55	4,670	63	2,504	126
	靴下	〃	2,034	145	2,252	117	1,792	89
	計	封度	1,761	91	2,250	87	2,313	98
雑繊維製品	漁網	〃	441	88	520	75	1,040	100
	漁具	糸	1,320	92	1,730	91	1,273	95
	学校服	着	1,243	41	1,006	32	1,262	123
	作業服	〃	2,176	25	2,129	22	204	129
縫製品	制服	〃	1,936	71	1,936	71	—	—
	乳児および子供服	〃	301	31	401	32	424	81
	既成服	〃	2,201	52	1,839	40	914	165
	中衣・肌衣	点	22,666	115	16,738	88	38,715	118
綿	綿	封度	348,582	93	364,765	85	53,257	77

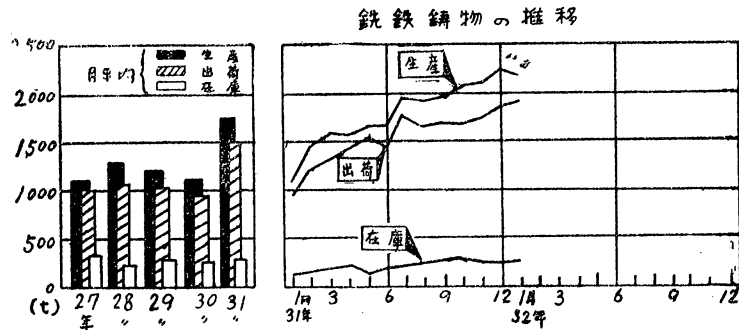
★本表は、生産動態統計調査規則に定められている繊維工場を調査対象としたものであるが、特紡糸、和紡糸以外の紡績工場および抽出調査工場は含まれていない。

# 機 械 部 門

(昭和32年1月度分)

## 概 況

銑鉄鑄物の1月の生産を前年12月に比べると95%で5%減少しているが、出荷は104%と前月を4%上廻っている。生産を品目別にみると産業機械器具用94%、鉄道および車輛用129%、電気通信機器用139%、日用品115%である。



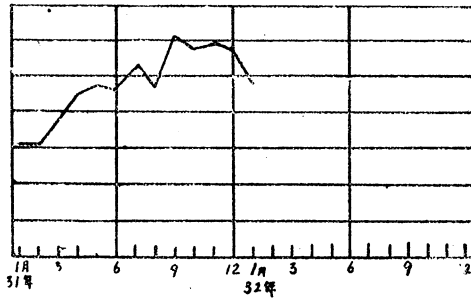
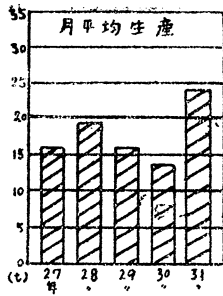
銅合金鑄物の生産は前月に比べ80%で20%の減少であるがこれは一時的な現象と思われる。

軽合金鑄物の生産は94%でこれもかなり高い生産を続けている。

## 銑 鉄 鑄 物

区 分 用途別	生 産		出 荷		自己消費	月末在庫	対象工場数 13
	重量 kg	金 額 千円	重量 kg	金 額 千円	重量 kg	重量 kg	
総 数	218,047	16,462	187,298	14,688	30,758	30,285	生産前月対比
産業機械器具用	115,029	8,676	106,606	8,088	8,712	13,115	95
雑機械器具用	—	—	—	—	—	—	出荷前月対比
鉄道および車輛用	23,399	1,849	23,399	1,849	—	—	104
電気および通信機器用	41,026	3,398	40,806	3,378	—	1,220	在庫前月対比
農水産機器用	870	78	530	48	—	340	—
港湾および船舶機器用	—	—	—	—	—	—	—
雑機械器具用	16,239	1,201	5,943	468	10,296	—	91
日用品	5,730	427	6,010	478	—	15,610	—
鋳型および鋳型定盤	11,750	453	—	—	11,750	—	—
その他	4,004	380	4,004	380	—	—	—

銅合金鑄物の推移



銅合金鑄物

区分 用途別	生産	
	重量 kg	金額 千円
総数	23,759	12,151
産業機械器具用	1,250	797
電気および通信機器用	8,670	4,372
鉄道および車輛用	211	113
港湾および船舶機器用	2,882	1,627
その他の機械器具用	—	—
軸受メタル	962	509
管継手	—	—
バルブコック	8,711	4,156
建築用	122	100
日用品	—	—
その他	951	477
対象工場数	7	生産前月対比 80

軽合金鑄物

区分 用途別	生産	
	重量 kg	金額 千円
総数	7,748	3,626
産業機械器具用	576	247
鉄道および車輛用	538	187
自動車用	—	—
電気および通信機器用	6,169	3,012
港湾および船舶機器用	—	—
精密機器用	48	34
農水産機器用	—	—
その他の機械器具用	310	109
日用品	—	—
その他	107	38
対象工場数	5	生産前月対比 94

※本表の工場は下記の定義にもとづいたものである。

鉄鋳物については従業員10名以上、銅合金鑄物および軽合金鑄物については従業員5名以上の工場が調査の対象である。



業種	区分 製品名	単位	生産数量			出荷数量						月末在庫 数量	事業所 数 (操業)
			数量	前月 対比	金額	国内向			輸南向				
						数量	前月 対比	金額	数量	前月 対比	金額		
革靴	総数	〃	534	71	1,093	601	80	1,243	—	—	—	476	5(5)
	男子総革靴	〃	435	68	871	486	77	987	—	—	—	235	
	婦人〃	〃	99	90	222	115	94	256	—	—	—	238	
	その他靴	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	
漆器(木製)	総数	個	2,134	90	962	2,184	91	968	—	—	—	—	12(11)
	食器類	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	容器類	〃	643	88	123	653	88	126	—	—	—	10	
	食卓子、膳盆類	〃	1,390	85	826	1,430	84	829	—	—	—	52	
その他	〃	101	—	13	101	—	13	—	—	—	2		
建築用コンクリートブロック	総数	個	27,516	113	750	26,680	99	865	—	—	—	37,972	3(3)
	A種 { 基本型	〃	2,458	88	74	950	30	33	—	—	—	1,709	
	異型	〃	—	—	—	45	54	1,600	—	—	—	9,729	
	B種 { 基本型	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	異型	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	C種 { 基本型	〃	9,527	92	289	9,084	86	344	—	—	—	10,749	
異型	〃	230	41	8	183	42	6	—	—	—	1,368		
帳壁用ブロック	個	15,301	149	379	16,418	128	480	—	—	—	16,126		
陶磁器	総数	疋	205,817	107	20,121	202,387	107	20,097	—	—	—	135,328	17(16)
	電気用品 { 特別高圧用碍子	〃	34,551	98	12,853	34,551	98	12,853	—	—	—	—	
	高圧用碍子	〃	1,842	99	1,824	1,842	99	1,824	—	—	—	—	
	低圧用碍子	〃	3,349	102	3,441	3,349	102	3,441	—	—	—	—	
	その他	〃	280	71	368	280	71	368	—	—	—	—	
	家庭用品	〃	117,395	109	1,140	111,965	109	1,096	—	—	—	134,028	
	衛生用品	〃	48,400	110	495	50,400	111	515	—	—	—	1,100	
その他	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200		

※対象工場数、生産数量及び出荷数量において2以下の事業所については公表を禁じられているので、金属洋食器、がらす製品は除外した。

がん具、革靴、陶磁器は5人以上の事業所、漆器、コンクリートブロック、赤れんがは全事業所である。

# 理科クラブと統計教育

— 結・安 静 中 学 校 —

(その 1)

## (1) 水に物がどの位とけるか

二年 関 勲  
高 橋 昇  
国府田 大

動機—子供の科学1956年9月号に「水に物がとけるようす」と言う実験の手引を見て共同して砂糖・食塩・硫酸銅について行いました。石灰は途中で中止した。

用具—ピーカー、温度計、ガラス棒、電熱器、上皿天秤、石綿付金網、匙、砂糖(買ったもの)、食塩(買ったものと日本薬局方の2種類)、硫酸銅(試薬1級品)

### 白砂糖は水にどの位とけるか (2年関勲)

ピーカーに水100cc、それに白砂糖が60、80、100グラムもとけたので少々驚いた。子供の科学の本にも書いてないし、用意する砂糖の量が問題である。先生に尋ねたら自分等が使ったのと違う教科書を出してくれました。それによつて160ccになった砂糖水を4等分して25ccの水にとける量に計算しなほして後で又100ccの水にしなほした。

#### 実験の反省

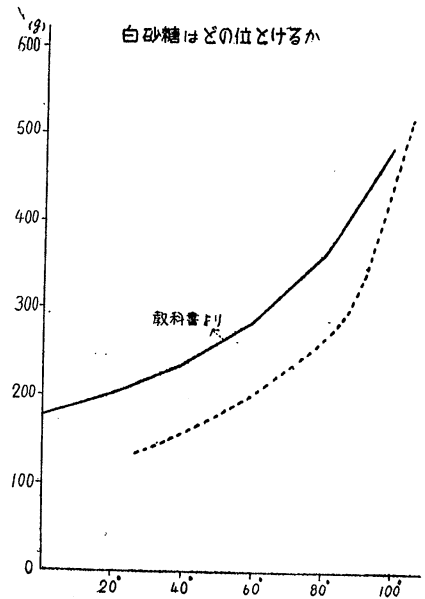
- (1) とける際に白い粒のようなものができたが顕微鏡で見ると気泡であり、少し放つて置くと皆上へ浮き上るのでそれでも気泡であることがわかった。温度が下つても食塩のように塩みたいものが出ないので温度ととける量がはつきりしなかつた。
- (2) 教科書のより実験したものがとけるのが少ないのは、砂糖が湿気を持つていたからだろうか。水分の量を測つておけばよかつたと思つた。冬のようなナラサラしたものでなかつた。1回だけの測定でこう考えるのもどうか測定法も考えてみねばならないと先生に注意されましたが。
- (3) 80度以上になると砂糖がべたべたと温度計やガラス棒について固まつて来、90度以上は又どんとどんとけて温度が、10度以上にもなつたりして測定は困難であつた。いつか色が変わり始めたので中止した。

#### 測定してわかつたこと

- (1) 砂糖は温度が上るとどんとどんとける。塩や硫酸銅は

問題でなく、100度にもなると水の重量で5倍くらいとけること。

- (2) 100度上下で色が変わつて来て餡のようになったのはとけるのでないらしい。炭水化物という最後に炭が残ると言う成分のためだろうか。



		温 度	溶 解 度
教科書 自然のすがた I34頁	0°C	179g	
	20	204	
	40	238	
	60	287	
	80	362	
	100	487	
実験	資料紛失のため不明、(グラフに書いてから)		

### 水に硫酸銅がどの位とける位か (2年国府田大)

始めピーカーへ水 100cc入れて硫酸銅を20グラム天秤ではかり、それをとけるまで入れて、残りをはかつたら5グラムあつたので、15グラムとけたことがわかつた。その時の水温は10度Cであつた。次には乳鉢で粉にして



5.5グラムづゝ幾つもはかつておいて一つづつ入れて電  
熱器で水温をあげてとかして測つて表やグラフにしたも  
のがこれです。

**実験してわかったこと。**

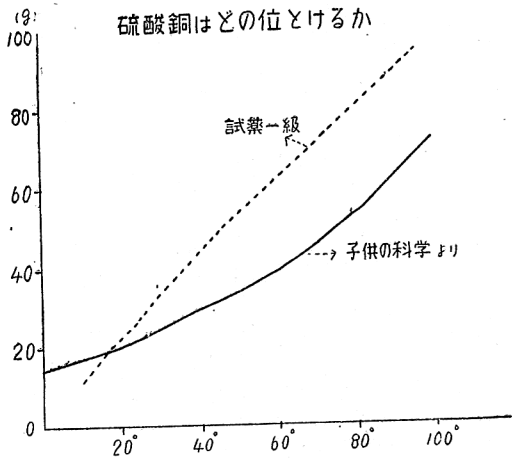
子供の科学にあつたものもグラフに青色で書いたが、  
自分達のしたものは曲線にならなかつたのは、測定法が  
まづかつたのだろうか？又余計に多くとけているのは薬品  
の品質が違うのだろうか。子供の科学の薬品は試薬一級  
品とは違うのだろうか？

食塩とくらべると温度が上るにつれてとける量が非常  
に多かつた。

翌朝ピーカーを見ると、霜柱の様な形をしたものがあ  
つた。本で見ると硫酸銅の析出であつた。理由はとけて  
入つていた硫酸銅が温度が下つたので、その温度に余分  
にとけていた量だけ固体になつて分れて出て来たものだ  
つた。

もつと簡単にはかれると思つたものが、案外時間がか  
かるものだつたと言うことがわかつた。

実験してグラフに取つた点がなだらかな曲線にならない  
が、それらの点の間を通つた曲線が正しい実験の線であ  
るかも知れないと言うこと(先生が書いてくれたもの)



	温 度	溶 解 度
試 薬 一 級	10°C	15 g
	23	20
	35	42.5
	44	55
	55	57.5
	67	70
	82	85
子 科 の 学 1956 9月号 59頁	0°C	14.9 g
	20	20
	40	29.5
	60	39.0
	80	53.5
	100	73.5

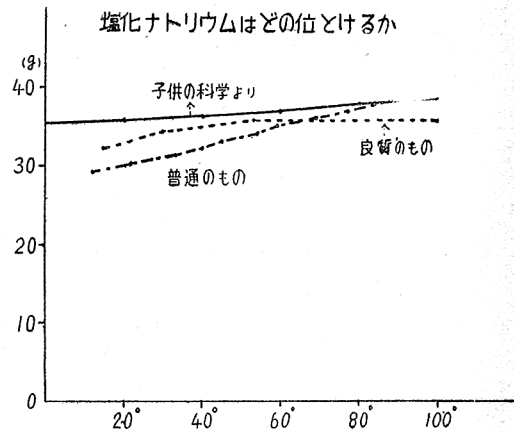
**塩化ナトリウムがどの位とけるか (2年高橋昇)**

実験用の塩(日本薬局方)と商店から買つて来た普通  
の塩をとかしたのがこの表とグラフです。子供の科学  
のにつているのを書いたのが青色の線です。良質の塩よ  
り普通の塩の方が余計とけています。普通の塩は水分を  
含んでいるためでしょうか。測定した時の湿度は72%で  
焼塩にすると50グラムの塩で 1.5グラムの水分が出た。  
子供の科学に書いてあるのは少しづつ上つていきます。実  
際に私達がやつたのは20度づつやれないので、1グラムの  
塩を入れてそれがとけるまで熱を上げてとけたら記入  
すると言うやり方です。

何度で何グラムの塩がとけるかと言うことを塩の溶解  
といいます。溶解度は物質によつて違います。同じ物質  
でも温度のちがひによつて変わります。

**私達の調べて来たことではつきり分ることは**

- (1) 熱を加えれば多くとける。塩は硫酸銅や砂糖にくら  
べると余りとけません。
- (2) 塩化ナトリウムを高温でとかしてから、さますとこ  
の様にかたまつたものができます。これは析出した食  
塩です。



	温 度	溶 解 度
普 通 の も の	12°C	29.3 g
	22	30.3
	33	31.3
	40	32.3
	45	33.3
	54	34.3
	59	35.3
	69	36.3
良 質 の も の	77	37.3
	82	38.3
	14.5°C	32.3 g
	30	34.5
	53	35.9
	100	36

子供 の 学 校 1956 9月号 59頁	科	o°c	35.5 g
		20	35.9
		40	36.4
		60	37.0
		80	38.0
		100	39.2

## (2)8月の気温、井戸水、田水の変化

3年 大島 たい

### ●測定の動機

井戸の水は何の気もなく飲んでいたが、井戸水はどの位の温度であるかと思つて、一度計つて見た。そして16度だつた。そしてこの時の気温はどの位だろうと思つて一しよに計つた。こんなことから私は少しくわしく計つて見ることにした。

### ●測定の方法

井戸水 つるべで汲み出して計つた。

田の水 家の近くの田で

気温 家の中

時刻 午後2時

そして次のような表ができました。

次の表で

・井戸水は茶色で気温が32.5度の時16度です。

・田の水は黄色で気温が32.5度の時34度です。

この田の水の所で19日から21日までは日でりが続いたため、田の水がなくなつて計れなかつた。

・この表でわかつたこと。

毎日計つて見ていると、田の水は気温に関係があるのではないかと思つた。

晴れの日、いつでも気温よりは田の水の方が暖かく、その差は大体2度位。

曇の日も気温よりは田の水の方が暖かい。

雨の日も気温より田の水の方が1度位低い。

・このことから

田の水は太陽の熱によりずつと暖められ、気温や天気に深い関係があるようです。これは3年1組の岩田さんが調べたものでも、つるべで汲出して測定したもので、やはり井戸水の温度は変りないようです。

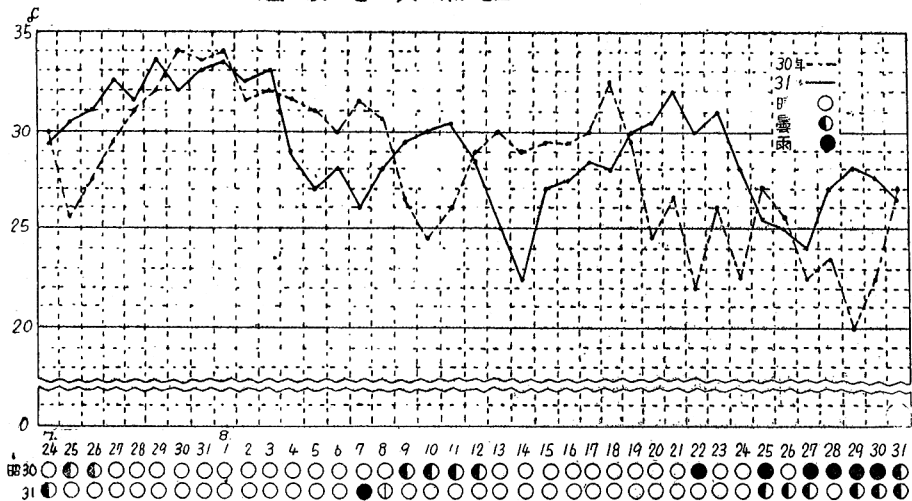
冬になつたからといつても水温がずつと低くなるということは考えられないと思います。

田の水は気温や天気に関係があるので、曇や雨が続くと23.4度であるから冷害があると、稲がとれないのではないかと考えました。

### ●反省

今年は7月中下旬に暑かつたが、この時も計つて見るとよかつたと思ひました。

## 温度と天気調べ



### (3)田圃の水温測定を調べて

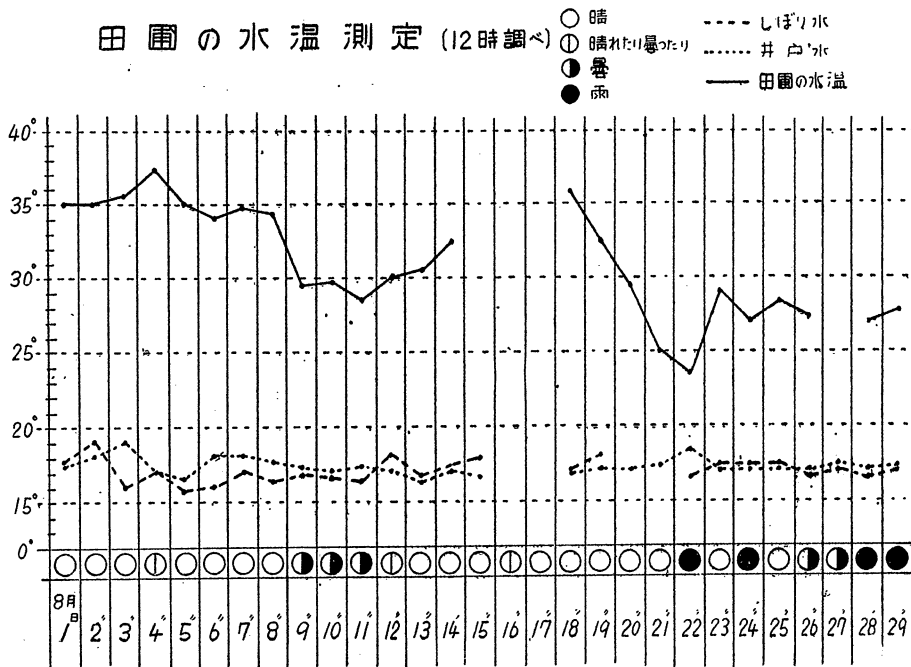
二年 久保谷南美子

私は、夏休中に、田圃の水温測定とゆう題で調べて見ました。井戸水・しぼり水・田圃の水温の3どおりを調べた。そのグラフは、最後に出します。調べた結果としては、井戸水の温度は、気候や外の気温に関係していないことがわかった。しぼり水や、田圃の水温は、気候に関係していることがわかった。井戸水を調べた2、3日はいろいろの入れ物でやつたが、温度の上り、下りが大部分ちがつてくる。ちがうのは、なぜだろうと考えて見たら、入れ物に関係していることにきがついた。即ち金属の入れ物は、せと物よりもすぐ外の温度で、変化してし

まう。小さい入れ物では、温度が高いが、大きい入れ物では低いということ。それからは毎日同じ入れ物で調べました。田圃の水温や、しぼり水は家の坂下の方にあるので、あまり速く行かないですむ。調べる場所は、はじめに決めて置いたのでよいと思う。

天候はその時調べた時の天候です。それから調べる時刻は、12時なので、真夏のことはあるし、暑かったが、反省して見るとよく調べたと思います。毎日、毎日こいう暑い日の中を調べたが、今になってみると、自分でもよくやつたと思うこともあります。これ以上ですが、自分で気がついたことは、いろいろの都合で、やらない日もあつたから、来年からは、最初から、最後まで、続けてやりたいと思います。

田圃の水温測定 (12時調べ)



# 昭和31年度貯蓄に関する世論調査の結果

## 1. ま え が き

茨城県貯蓄推進協力会においては本年9月貯蓄増強中央委員会と協力し昨年に引続き県内一般家庭の貯蓄に関する世調査を実施した。

調査票は県下小中学校の児童生徒を通じて1000枚(全国51,000枚)を一般家庭に配布したが、回答枚数は928枚(全国44,624枚)で、回答率は92.8%(全国87.5%)と昨年(90.3%)を上回った。(全国の前回は89.3%)

なお、回答者の職業別構成率は次の通りで前回とほとんど変るところはなかつた。

商 業	20.6%	(全国 18.8%)
工 鉱 業	2.7	(// 4.0 )
農 林 漁 業	33.1	(// 26.6 )
賃金俸給生活者	22.1	(// 30.3 )
自由職業その他	10.8	(// 11.1 )
無 職	2.0	(// 2.9 )
職 業 不 明	8.7	(// 6.3 )

## 2. 調 査 事 項

(1) おうちで貯金していますか。

イ している	90.3%	(全国85.9%)
ロ していない	9.7	(// 14.1 )

「貯金をしている家庭」は回答総数の90.3%に達して全国平均(85.9%)を上回る高率を示し、2年続きの豊作と昨年来の好況に拘らず一般の貯蓄意欲は引続き旺盛であることがうかがわれる。

回答者の職業別では商業、賃金俸給生活者夫々93.2%(全国夫々90.4%、90.7%)、農林漁業92.8%(全国86.7%)、工鉱業92.0%(全国84.4%)、自由職業その他91.0%(全国78.9%)、無職57.9%(全国56.5%)の順となっている。なお、回答総数に対し「貯金をしている家庭」の昭和28年以降の比率は次の通りとなっている。

昭和28年	81.2%	(全国77.7%)
// 29年	86.1	(// 80.6 )
// 30年	90.4	(// 87.5 )
// 31年	90.3	(// 85.9 )

(2) 貯蓄をするためにどのような工夫をしておられますか。

イ 節約している	64.5%	(全国61.4%)
ロ 内職または副業をしている	14.2%	(全国11.8%)
ハ 臨時収入を貯蓄に廻している	21.3%	(全国21.8 )
ニ その他	0	(// 6.0 )

生活の予算化等による冗費の節約が貯蓄の根本である

ことはいうまでもないところであつて、すべての職業を通じて「節約している」家庭が5割(全国6割)を超えているが、「臨時収入を貯蓄に廻している」家庭は概して賃金俸給生活者(29.9%、全国23.4%)に多く、「内職または副業をしている」家庭が無職(30.0%、全国18.2%)に比較的多いことは昨年と同様である。

(3) おうちの貯金はどのような目的でしておられますか。

イ 生活の改善のために	14.3%	(全国13.6%)
ロ こどもの教育費に	23.1	(// 24.5 )
ハ 結婚の資金に	5.5	(// 4.3 )
ニ リクリエーションのために	2.0	(// 1.5 )
ホ 病気その他不時の災害に備えて	27.7	(// 30.6 )
ヘ 土地、家屋の買入修築のために	7.6	(// 7.2 )
ト 納税のために	11.3	(// 8.9 )
チ 老後の生活安定のために	8.5	(// 8.1 )
リ その他	0	(// 1.3 )

どの家庭でも「病気その他不時の災害に備える」と「こどもの教育費」に充てるのが最大の関心事となつており(両者で50.8%、全国55.1%)、これについて「生活の改善のために」と「老後の生活安定のために」する貯蓄が目立つており「リクリエーション」、「結婚資金」のための貯蓄は依然低率で、各家庭の貯蓄意欲がここまで到達するには今後ともかなりの時日を要するものと思われる。

なお、職業別には「生活改善のための」貯蓄は近年特に生活の合理化に熱意をみせている農林漁業に(19.5%、全国17.2%)、「こどもの教育費」のための貯蓄は賃金俸給生活者に(32.6%、全国30.6%)、また「納税のため」の貯蓄は商業に(18.8%、全国13.9%)多かつた。

(4) 貯蓄の方法は次のどちらですか。

イ 天引で貯金する	48.8%	(全国52.7%)
ロ 余裕ができたらず貯金する	51.2	(// 47.3 //)

「天引で貯金する」ものはやはり俸給生活者(73.3%、全国69.1%)が筆頭で、工鉱業(63.2%、全国51.3%)、商業(57.5%、全国54.6%)がこれについて多く、「余裕ができたらず貯金する」は無職(71.4%、全国67.4%)、農林漁業(69.2%、全国60.9%)、自由職業その他(62.8%、全国58.3%)の順となっている。

(5) どんな種類の貯金が好きですか。

イ 利子が安くても出し入れが自由な貯金(普通貯金)	55.4%	(全国50.3%)
ロ 預入期間は長くても利子の高い貯金(定期預金、金銭信託)	15.7	(// 16.8 //)

、 毎月積立てて行く貯金（定期積金、期相互掛金「無尽」積立定期預貯金等） 25.8（全国29.7%）

ニ 割増金付定期預金 3.1（＼ 3.2）

預金の種類としては「出し入れが自由な貯金」つまり郵便貯金を含めた普通預金が55.4%と過半数を占め、「毎月積立てて行く」定期積金等や「利率の高い」定期預金、三浅信託がこれに次ぎ、割増金付定期預金が依然人気のないことなど、過去の調査の場合と全く同様の傾向を示している。

職業別にみると積立式の貯金は商業（38.4%、全国38.2%）、賃金俸給生活者（33.0%、全国35.1%）に歓迎されているが「余裕ができたなら貯金する」向の多い農林漁業無職では「利率は安くても出し入れが自由な貯金」を望んでいる。

6) 金融機関に何を望みますか

イ 集金にきてほしい 40.0%（全国40.7%）

ロ 小額でもつと親切にしてほしい 30.1（＼ 26.1）

ハ 近くに店舗ができればよい 7.5（＼ 7.3）

ニ 窓口で待たせないようにしてほしい 21.7（＼ 22.6）

ホ その他 0.7（＼ 3.3）

金融機関に対する要望は「集金にきてほしい」というのが依然多く、昨年よりも1.8%（全国2.3%）増加している。

(7) 加入しておられる貯蓄組合は

イ 職場の国民貯蓄組合 10.6%（全国12.2%）

ロ 地域の国民貯蓄組合 12.8（＼ 13.9）

ハ 婦人会、青年団の国民貯蓄組合 22.3（＼ 21.7）

ニ 金融機関の窓口で取扱う国民貯蓄組合（預金者貯蓄組合） 23.9（＼ 24.4）

ホ その他の国民貯蓄組合 6.1（＼ 6.1）

へ どの国民貯蓄組合にも加入していない 24.3（＼ 21.7）

国民貯蓄組合加入率（75.7%、全国78.3%）は昨年（53.7%、全国46.4%）にくらべて著しく高率を示しているが、これは国民貯蓄組合に対する一般の認識が一段と高まって来た証左と思われる。

職業別の加入状況を見ると各業種とも加入率は高まってきたが、ことに商業が81.9%と最高（全国では農林漁業の85.0%が最高）を示し、貯蓄組合の種類別では商業は「預金者貯蓄組合」（35.0%、全国34.9%）、農林漁業では「婦人会、青年団の貯蓄組合」（31.2%、全国33.3%）がそれぞれ最高であり、また賃金俸給生活者では「職場の貯蓄組合」（23.8%、全国26.5%）がやはり多い。

(8) 貯金のほかにどのようにお金を運用していますか。

イ 生命保険に加入している 84.8%（全国74.9%）

ロ 株式を買っている 7.5（＼ 11.3）

ハ 社債を買っている 2.3（＼ 2.6）

ニ 不動産に投資している 5.2（＼ 6.2）

ホ その他 0.2（＼ 5.0）

貯金以外のお金の運用方法では生命保険加入者が84.8%（全国74.9%、昨年は本県53.7%、全国46.4%）と著しく増加をみせており、ことに賃金俸給生活者が職業柄88.4%（全国77.6%）と高率を示している。

このように保険への関心が一段と高まっているのはすべての職業を通じて長期生活設計への意欲が高まりつつあること及び税負担の軽減に対する好感を示すものと思われる。これに反して有価証券投資は商業に、不動産投資は農林漁業に若干高い程度である。

(9) 昨年とくらべてくらしはどくなりましたか。

イ 衣生活がらくになった 11.8%（全国 9.1%）

ロ 食生活がらくになった 16.5（＼ 12.9）

ハ 住生活がらくになった 4.1（＼ 4.3）

ニ 減取で苦しくなった 16.2（＼ 12.9）

ホ 臨時支出（病気などがあつて苦しくなった） 8.9（＼ 10.9）

へ 事業不振で苦しくなった 4.8（＼ 6.8）

ト 昨年と変らない 36.6（＼ 41.1）

チ その他 1.1（＼ 2.0）

昨年とくらべて生活が「変らない」と答えたものが全体の36.6%、（全国41.1%）と最高率を示しているが、「らくになった」というもの（32.4%）が「苦しくなった」とするもの（29.9%）よりやや多かつた。（全国では「らくになった」もの26.3%、「苦しくなった」もの30.6%と「苦しくなったもの」の方が多くなっている）。また職業別にみると工鉱業者、賃金俸給生活者では「らくになった」と答えたものが多く、昨年豊作ブームをうたわれた農林漁業者（農村を主体とする）では「らくになった」27.5%、（全国20.8%）より「苦しくなった」32.1%、（全国38.8%）と訴えるものが多かつたが、これは一般に農家の生活程度がかなり高くなって来ているためと全国では北海道の凶作が響いているものと思われる。

(10) おうちでは家計簿をつけていますか。

イ つけている 55.3%（全国52.7%）

ロ つけていない 44.7（＼ 47.3%）

家計簿をつけている家庭は昨年（53.5%）より若干増加している（全国の昨年は53.7%）。

家計簿をつけていない職業では無職が64.7%（全国55.1%）、農林漁業が54.1%、（全国53.0%）と依然高率である。なかでも収入に季節性のある農林漁業が高率であることは合理的計画の必要性が痛感される業種だけに今後とも更に一層家計簿記帳の普及が望まれる。

（茨城県貯蓄推進協力会提供）

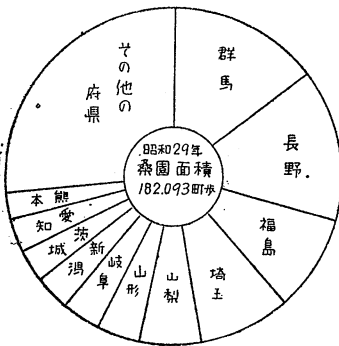
# 統計図表の作り方

[その 3]

## 円面積図表

円の面積によつて示す図表に2種類ある。1は一個の円の面積を分割して内訳を示すものであり、他は大小いくつもの円をかいてその面積の比例によつて数値を示すものである。この円の面積を分割する図表は、円分割図といわれ、わが国では一般にパイという英語名が広く行われている。このパイという名は円周率パイ(π)とは無関係で、パイと呼ぶ西洋菓子(Pie)の形に似ているからこう呼ぶのである。すなわちアップルパイとかイチゴパイなどといわれる大きな円形の菓子はちよつとこの円分割図のごとくナイフを入れるからである。この図表に対してわが国では扇形図という名も行われている。これは円を分割した区分が扇の形になるからであろうが、同じく円分割図で半円を分割したものは(第16図 森林面積)、全体の形が扇のごとくであり、この図こそ扇形図と呼ぶのにふさわしく思われる。全円を分割したもので扇形図と呼ぶと半円分割図と混同されやすくもあり、やはり円分割図又はパイ図といった方がよいように思う。円分割図の一例は第15図「わが国の桑園面積」に示されている。このように円

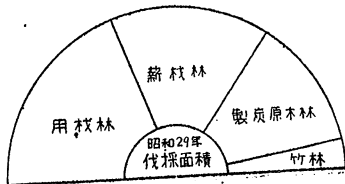
第15図 わが国の桑園面積 (昭和29年)



の面積を分割した場合に、その1区分の面積はその弧の長さ(すなわちその区分の円周の長さ)に正比例するから面積の比較であるにかかわらず、はなはだ見やすい図表となるのである。これはあたかも、長方形の内訳図がその長辺の長さに比例するのと同じような理由で、比較が簡単だからである。ゆえに統

計図表としては最も広く利用される。長方形の分割に比べて円を分割する方は小さい数値でも明確に示し得る便利さがある。そのわけは同じ大きさの場所にかくときに、長方形の長辺の長さよりも、円周の方が長くなるからである。円分割図は分度器によつて内訳の区分をかく。いまかこうとする総数を360度とし、各内訳の数を比例によつて割出して、それだけの度数を円周上に取り、その点と円の中心を直線で結べばよいのである。たとえば、第15図のわが国の桑園面積を主要府県別に示した円分割図をかこうとする場合に、面積総計が182,093町歩であり、そのうち、群馬県が26,630町歩、長野県が26,420町歩であれば、 $182,093 : 360 = 26,630 : x = 26,420 : x$ の比例計算によつて、群馬県は52.6度、長野県は52.2度と算出し、この度数を分度器で、円周上を取ればよいのである。あまりたびたびこの計算をしなければならぬので手数だと思ふ人は、あらかじめ円を250又は100に割つた(100に割る方が使いやすい)分度器を自分で作つておけばよい。

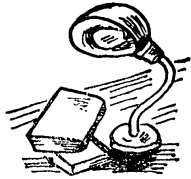
第16図 伐採面積 (茨城県)



次にこの図をかくについてのいろいろの注意を述べよう。まず区分のとり方であるが、元来円周は初めも終りもないものだから、理論からいへばどこから区分を取り始めてもよいわけだけれども、出来上がった図表を見やすくするには、最初に上部円周の中央から円の中心に向つて縦の直線を引き、これを基準として右に1番大きな区分をとり、次に大きなものから順に小さなものへ右回りに(時計の針の進む方向)区分をとつて、最後に最小のものか、又は「その他」を取つて終るようにする。もつとも必ずしも右回りにする必要はなく、左回りで大き

へ順にとつて行つてもよいが、まず最初に上部中央に垂直の基準線を引くのは、図を見やすくする意味で推奨したいことである。基準線を円の右方又は左方へ水平に引くかき方も往々見掛けるが、水平線よりは垂直線の方がよいと思う。

区分を分つ線はすべて円の中心へ集まるから、中心近くでは線が混雑し、ために図表がきたなく成りがちのものである。特に区分数の多いときはこの混雑がヒドクなる。これを避けるには円の中心に小円をかいて、そこへ標題なり、年度なり、適当な文字でも入れることにするとよい。(次号へつづく)



## (統) (計) (用) (語) (の) (解) (説)

〔操短〕 操業短縮の略で、生産過剰による製品の値下りを防ぐため、一部生産設備の操業を停止したり、操業日、操業時間の短縮することである。特に海外経済の影響を受けやすい紡績、鉄鋼、肥料、ソーダ、パルプ、ゴム、石炭などの各産業では、しばしば操短を実施している。

〔ファイル方式〕 アメリカで普及している科学的で能率的な書簿整理の一方法である。特に検察関係で採用しており整理原票、記入票、氏名カード、受付カード通知原票、メモ票、検定処分通知票、判決通知票その他の通知原票10種類に分れ、特に注目される点は、氏名、罪名を数字で表し、総合的捜査に便利である。

### 編 集 室

◎2月下旬になつても今年はサツパリ春らしい感じがしない。今年はさきに暖冬異変といわれたが、異常乾燥の災いによつて庭の桜もチラホラである。桜の名所で知られる水戸の偕楽園や弘道館公園もやつと二分咲き程度であるが、観桜客は例年にまして遠く東京、宇都宮方面から沢山押しかけてきている。24日の第一観桜デーには神武景気?に酔つた観桜客の人数は実に5万にのぼり、三千坪の園内は無論電車、バスも大満員である。なお写真には観桜客でにぎわう偕楽園である。

◎最近ドライという言葉が盛んに流行しているが、これは昔の古い習慣や義理人情にとらわれず何事も合理的に割切つてしまう考え方をいうらしい。太陽族映画や小説の氾濫に伴つてこういう言葉が生れてきたらしいが、時代の転換期には必ず青少年の言動が大きな社会問題となるのである。特に戦後の民主主義によつて昔の封建的思想や慣習は悉く悪いものと酷評されてしまう傾向が少くない。また戦後における青少年の道德観念の欠如と学力の低下はその傾向をさらに助長しているようである。

これは現代の青少年が余りにも自我意識が強いことと、古い世代への反抗を有しているためと思われる。どうか人間としての自己反省を忘れずに個々の教養の向上を計り、次代の日本を背負うべき大きな使命を自覚して大いに勉強してもらいたいものである。

◎今年もまた統計講習会が開かれるが、講師の話術にもよるが、「年寄りの冷水」式ではなく、最後まで飽きずに講習を受けてもらいたい。私たち平常の勤務生活ではなかなかまとまった本も読めないし、また勉強も非常に難しい。こういうチャンスを利用して大いに統計知識を広め技術を少しでも磨いてもらいたい。

